

猫は生まれてすぐ人が育てても猫に育つ。犬は生まれてすぐ人が育てても犬に育つ。では、人間はどうだろうか。人間は人間に生まれたからといって人間に育つとは決まっていない。

こんなことを考えることはないだろうか。もし、福島ではなく東京に生まれ育っていたら。もし、あの学校に入っていなかったら。もし、教員になっていなかったら。考えればきりがない。だが、数えきれないほどの可能性があることはわかる。

今日の学者の定説では、人は約5000通りの可能性を持って生まれてくるのだそうである。その5000通りの可能性の中には、誰もが死刑囚になる可能性を持っている。その5000通りの中から、どんな自分を取り出していくか。世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者は私、すなわち自分である。

5000通りの中から選んで、今の人生を歩んでいるとしたら、もっともっと大事にしなければならない。自分の生き方をもっと深く掘り下げなければならない。

元プロテニスプレーヤーである杉山愛さんのお母さんが、以下のことを言っている。

子どもは社会からの預かりものであって、社会に役立つ一人の人間として成長するまで
寄り添うのが親のミッション

この言葉を知って、「そういうことだったのか」と、妙に納得してしまった。親として、子どもを育てていけば、いろいろなことが起きる。日々、悩み苦しむこともある。ふと、子どもの成長に涙することもある。すべては、親としての使命なのである。使命なのだから、やらなければならない。預かりものなのだから、大事に大切にしなければならない。

5000通りの可能性と、親のミッションとを考え合わせると、人は親に見守られながら、少しずつ成長し、自分の可能性を切り拓いていく。どんな環境であれ、自分の人生の責任者は自分である。人のせいにはいけない。

親は、使命として預かりものである子どもを社会に出すまで大切に育てる。人は、育ててもらった親に感謝しながら、社会に出て自分の役割を果たしていく。それも5000通りの可能性の中から自分の生きる道を選んでいるのである。

こう考えていくと、今、置かれた場所で花を咲かせることが大切なのではないかという考えに至る。花は小さくてもいい。咲かせることが大切である。誰にでも、もっと違う人生はあったかもしれない。だが、今が大切である。今を考えられない人には、未来はない。今の自分の姿が、未来の自分の姿でもある。

人間が、人間として育つには、親の存在とともに、学校の存在も大きい。すなわち、学校の先生の存在である。親のミッションがあるとなれば、教師のミッションもあるだろう。教師の場合は、ミッションが、そのまま仕事となっている。やはり、特別な職業である。それだけに、責任重大である。5000通りの可能性に関わっていると考えると、武者震いしそうである。

さて、この5000通りの可能性と親のミッションの話を、いかに生徒におろすか。かなりの翻訳力を必要とする。それでも、ぜひ生徒には伝えたい。